社会保障発達への考察

H. Boroaz （フランス）

本稿には、次第に増大する効果的な社会的保護への願望と、フランス経済によって生み出すことのできる社会的支出の最高額との間における均衡を求めながら、社会的給付の発達を分析した論述が示されている。

経済的には、保健への支出は社会的なカテゴリー、つまり、医療担当者と医療補助者に対する、全国民から所得の移転を示している。この費用は、あらゆる種類の保護を求める人びとを取扱わなければならない医学的知識の普及と医学の成功によって、増大が避け難いものとなっている。

同様に、老齢保険――拠出を支払ってきた人びとを保障し、かつ生産的部門を通じて再分配された所得――への費用は、フランスが生計に必要な最低の支えもない人びとで、６５歳以上の約７００万人を抱えているから、増大は避けられないものとなっている。

家族手当については、実施されてきたものは、現在なおざり取扱うのを許されない。

このような状態だから、社会保障に充当する金額の最適な配分を行なう点について、公的な機関は活動にある限定された余裕をもつだけにすぎない。

保健の分野では、費用の重要な項目は病院医療と診療である。前者については、病院の改革が各金庫を設けてよりすぐれた利用を認めることができるかも知れないし、診療の費用では、選別方式の適用は望ましくないかも知れない。もし医療の独断的な減少が回避される場合、医師と患者はそれぞれの責任を知るようになるのが基本的なことである。

老齢保険については、最も悪い生活をしている人びとの社会的な立場を改善する方向に向う動きが現われるべきである。

家族政策は全般的に再検討されるべきで、現物の給付とともに所定のニーズを満す手当を提供すべきである。

全国的な社会連帯の手段によってのみ、この問題に対する解決が可能であろう。基本的に必要なことは社会保障費の合理化である。政府と社会的協力者のすべての協定した努力は、増大する医療費の問題に解決を見出だし、最も裕福でない人びとに最低限の福祉を提供し、かつ、社会保障制度にある程度の安定を回復させるために必要である。

これらの各種の問題は解決されさえすれば、その場合、社会保障は他の分野で人間の環境の改善に寄与するかも知れない。

Quelques Réflexions Surles Perspectives Dévolution de la Sécurité Sociale, Revue Franca－ise des Affaires Sociales, April － June 1971, pp. 287－290; No2, '72/73.